

# 森林文化都市熟考

2011年11月21日

野堀嘉裕

平成21年に鶴岡市は森林文化都市を宣言しましたが、この森林文化都市には色々な意味があると思います。例えば、自然豊かな森に囲まれた文化的な都市、森と街の関わりを歴史的に大切にしている街、森林と農耕地と街が一体化している都市などです。そこで私も考えてみることにしました。はじめに森林文化都市の用語を分解してみることにしましょう。

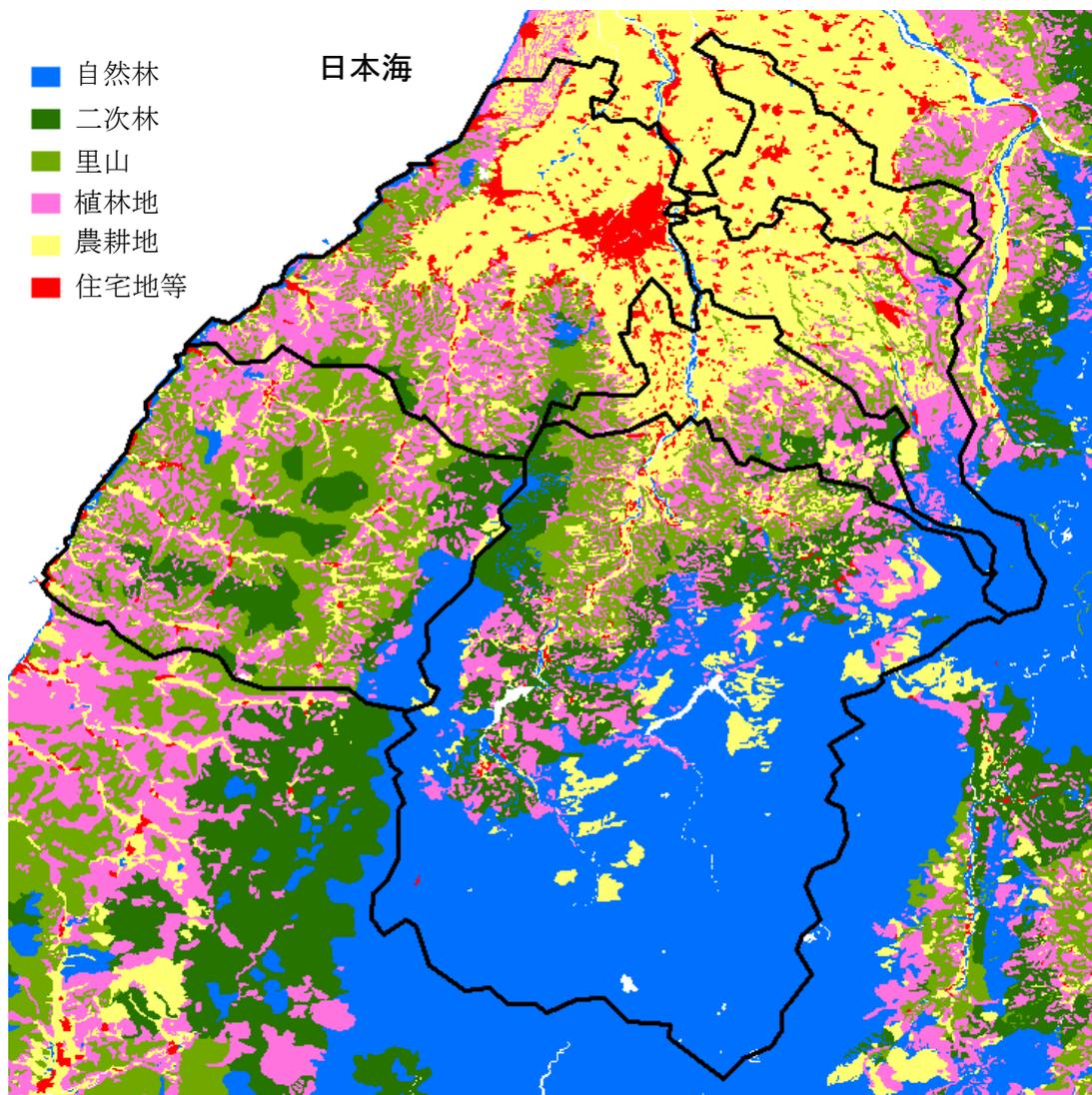
生態学の用語を調べると森は多層構造の樹木社会のことで大小の木々が混在して生えている様子を意味します。植生図でみると自然林にあたり、朝日連峰の北西側の山地になります。市街地の近くだと金峯山の尾根付近にも自然林があります。どちらかといえば身近な存在とはいいい難い奥深い場所です。林は単層構造の樹木社会のことで同じ大きさの木が並んでいる様子を意味します。植生図でみるとブナやナラの二次林やスギ人工林が該当し、農耕地と自然林の間にあります。山菜やキノコを採るのはこの辺です。文化は英語で culture といいますが、元の意味は耕すことです。鶴岡に耕されている場所は沢山あり市街地と林の間にあります。耕すという言葉の意味の中には歴史的な意味合いも含まれています。都市は人々が集うところですから市街地を意味します。鶴岡は中心市街地の外側にドーナツ状に農耕地が、その外側に植林地、林と森が扇を南に向けて広げたような形で配置された市であり、森林文化都市の全ての要素が整った市とみることができます。

ところで、林業という言葉を考えてみましょう。ブナやナラの二次林は薪炭林として古くから使われてきましたが、伐採の後萌芽するので植えることはありません。一方スギの人工林は柱や板材を生産する目的で植林されたもので、繰り返し収穫と植林が行われてきたところですから、耕作地＝文化に近いようにみえます。つまりブナやナラの二次林は林だけれどスギ人工林は文化に分類できそうです。スギの人工林と農耕地は一体となって鶴岡市を支えているのであり歴史的な意味も含めて文化は農耕地と植林地にあるといっても良いでしょう。

鶴岡以外で森林文化都市を宣言している群馬県沼田市や埼玉県飯能市では植林地と市街地それに農耕地が混在していますが、自然林はほとんどなく二次林もそれほどでもありません。ヨーロッパの大国ドイツでは昔、自然林は恐るべき暗黒の森で淘汰されるべき存在でした。現在自然林はほとんど残っておらず、植

林地と農耕地と市街地が混在した土地利用となっています。植林地を森林だと考えれば森林文化都市だといえますが、文化だと考えると森と林を失ってしまった文化都市になるかもしれません。沼田市や飯能市はドイツの現状に近いといえますが、鶴岡市の現状は明らかに他と異なります。

鶴岡市は平成の大合併で森林文化都市となりましたが、森や林を含めた森林文化都市の歴史はまだまだ浅いといわざるをえません。森は容易に人々を受け入れてくれません。これからは市民が植林地や農耕地だけでなく森や林の歴史を理解し、後世に受け継ぐことで鶴岡独自の森林文化都市に進展していくのではないかと思います。



図－1 鶴岡市の森林と植生自然度

注：市町村境界は2005年の合併以前の状態を示している。